

# 令和7年度 第2回 栃木特別支援学校 学校運営協議会 議事録（抜粋）

日 時 令和7年7月16日（木）9：40～12：00  
会 場 栃木特別支援学校 音楽室

## 1 開会 【進行：事務局】

## 2 校長挨拶

- ・本日はありがとうございます。日ごろから子どもたちの未来のために真摯に向き合っていただきありがとうございます。学校は間もなく1学期が終了します。学校間交流では皆川城東小、皆川中学校との3校交流、栃木工業高校との交流、地域交流ではイオンさんや国際ソロプチミストさんとの交流、また今年度初めてプロバレーボールチーム「レーヴィス栃木」との交流等、様々な交流がありました。レーヴィス栃木との交流は「よみうりタイムス南部版」にも掲載されました。以上のような様々な交流をとおして子どもたちは地域の人と共に人間性の深みを増すような教育活動ができたのではないかと思います。
- ・今日の協議会は8月の第3回運営協議会（熟議）に向けてのテーマを決める会となるので、短い時間ではありますが、深まりのある会になればと思いますので、よろしくお願いします。

## 3 委員紹介

委員、事務局の順番で紹介

## 4 協議 【進行：鈴木会長】

### （1）第1回学校運営協議会での意見・提案について

#### ①保護者のつながり・情報共有

##### ・（小澤委員）

朝のバス停での保護者同士のコミュニケーションがとれているところと、そうでないところがある。そういうところで、つながりを作るのは大切。保護者が地域に出たときにつながりが少ない。保護者同士の交流の場が少ないため、バス停などでの立ち話のような自然な接点を活用したいが、お仕事している方もいるので、知り合い以外の方とは長話しにくい。

##### ・（江里口委員）

PTAの間でも地域の人たちと「子どもたちのことを話す場が欲しいよね」という話題が出る。とにかく情報が欲しい。思った以上に情報が少ない。施設や子ども食堂があるのは知っているが内情はどうなっているのか分からない。見学に行きたいが、行くかというところまで誰が企画するのという話になってしまう。学校運営協議会を通して様々な情報を得たい。

##### ・（井口委員）

小山市は特別支援学級やその在籍児童生徒がどんどん増えている。保護者や先生方からその現状について様々な情報が入ってくる。今は情報収集の段階だが、これから先を見据えた幅広い支援をしていきたい。

#### ②就労支援・進路、卒業後の支援体制

##### ・（若林委員）

保護者が手を加えなければいけない時期と見守って子どもが一步一步進んでいくのを見守る時期との中で自己肯定感を高めるようななかかわり方や配慮が必要だと思う。学校は民間からしたら手厚くて立派な環境の中で学生生活を送れるのはいいなと思う。なので、卒業した後のギャップをどう埋めるか、非常に戸惑うのが生徒であって、それを徐々に狭めていく。手厚いところから荒波（自分のことを分かっているばかりの人ではない）の環境へ入っていくので、在学中からの体験や準備を通じてギャップを埋める支援が必要。つないだ先と

の連携、子どもの特性や配慮の情報といざ入ってみてどうかなどの確認を継続的に行う。これを行うことで、自分の居場所を見付け、その子の能力を発揮できることにつながる。

・（遠藤委員）

行政としても町内にある民間の就労支援施設との連携をしていきたい。民間の支援事業者や施設、保護者の意見を吸い上げていきたい。

③地域との連携・居場所づくり

・（福田委員）

就労のためのマッチングについては事業所の中での相談活動を通して定着していく場合もあるが、そこでも難しいケースもある。鹿沼市では子ども食堂で何気ない相談をしている場合もある。また、「あかりテラス」というのができて、引きこもりの方や鬱の方が相談に訪れている。誰でも利用できる気軽な居場所が地域にあると逃げ場があったり、客観的な立場の人が話を聞いたりすることで、元気を取り戻すことができるので、そういった地域づくりが大切だと思う。

・（首長委員）

以前、特別教育の在り方検討委員会の委員をしていた。その検討会では学校は手厚い、卒業生に対しても可能な限りフォローしている。しかし、地域の各施設や企業の受け皿的にはまだ手厚い対応ができない。そのギャップをどう埋めるかが課題であるという話があった。学校と施設の連携を今まで以上に別の方策として考えていかなければいけないので、そのギャップを埋めるのが学校運営協議会の役割の一つ。そのためには地域の人々の理解や担い手が必要なので、そこに向かって学校が持っている様々な資源を発信していくことが大切。

・（臼井委員）

3校交流については、最初はぎこちない中でも、児童がそれぞれの立場でその時間を楽しもう、関わろうとし、徐々に笑顔が見られ温かい雰囲気の中で行われた。最後は歌も歌い、良い会だった。発展的に今後どうしていくかということ話し合っていきたい。また、2校交流でもウォークラリーを行った。継続して取り組む意義がある。特色として残していきたい。

・（藤間委員）

事前授業や小学生との活動の打合せなど当日を迎えるまでに活動があり、そういった時間が大切。小学生から含めると合計5年間交流している。生徒たちの感想にも「不安だったけど、勇気を出して話し掛けてみたら打ち解けた」などとあった。毎年繰り返しながら皆川地域での経験をもって大人になっていくことが大切だなと思う。3校交流は来年度からも残していく方向性。

④地域イベント・交流促進

・（佐藤委員）

栃特の皆川城址まつりへの参加。参加できるのであれば、これを機に保護者のつながりの場を提供できれば。

・（中村委員）

江里口委員から企画する人がいないというご意見があったが、その企画するのが私の役目なのかなと思った。様々な立場の方とのつながりがあるので、そういう仲立ちをしていきたい。駄菓子屋の企画（17日実施）など、一つ一つ増やしていきたい。「くらら」では卒業生が集まる機会がある。「今の状況をお互いに話す、一人じゃないんだよ」と確認できる場になっている。

⑤今までのご意見を聞いて

・（保坂校長）

昨年度から保護者の声を聴いてきて、情報が少ないというご意見に対してはフリー参観や進路相談を設けてみたり、情報を発信してきたが、不十分なところがある。学校と地域、学校と行政というところでは学校の力が及ばない。たくさんの意見をいただく中で、自分たちも

様々な発見があるので、つなげて形にしていきたい。

・（下都賀教育事務所 鈴木課長）

保護者の方の意見を詳しく知る機会もなく、目指す方向性は見えていても具体性が欠けていたが、1回、2回の運営協議会に参加して、連携先などがみえてきたように思う。3回目の熟議はどのように具現化を図るかが大きなテーマ。この運営協議会で出た意見がヒントになってくる。

・（下都賀教育事務所 椎名副主幹）

熟議ではたくさんの意見をいただき、具体策につなげていけるとよい。

（２）部会の設定と熟議のテーマについて

①就労支援部会

部会名「未来 WAKUWAKU 部会」

テーマ「卒業後の進路について考えよう」

- ・ 障害の状況によっては施設が選ぶほどない。放課後等デイサービスが限られている。  
→保護者の負担が大きい。
  - ・ どこにどのような施設があるか分からない。
  - ・ 保護者の施設見学の希望は多い。
  - ・ PTAの施設見学は、過去に4地区で分かれて実施したことがあった。地域ごとにできたのはよかったが、担当になった保護者、教員ともに負担が大きかった。  
→学校ではなく地域でやることもできるのではないか。
  - ・ マップに福祉施設を落とし込む。
  - ・ 施設を個人で見学することはハードルが高い。
  - ・ 小学部の保護者は進路、就労と聞いてもイメージが湧かない。
  - ・ 学校でも福祉施設の情報提供をしているため、それも活用する。
  - ・ 卒業生のお話を聞く機会があるとよい。
  - ・ 情報はあがるが必要な情報を選択することが難しい。
- 部会として、小グループごとの福祉施設見学を企画する。それに向けた事前資料の準備。
- 施設では困ったことの相談など ZOOM で受け付けることができると思う。
- 部会として、卒業生のお話を聞く機会を設定。（学校行事の前後で）

②地域とのつながり・居場所づくり

部会名「地域と人の交流部会」

テーマ「学校と地域が一緒にできることは ～多様なつながりを求めて～」

- ・ 子どもと保護者が地域でつながりを作っていけるようにしていきたい
- ・ 皆川城址まつり（10/18）皆川地区地域まちづくり協議会主催
- ・ 居住地での保護者同士の関わりについて  
以前はあったが再開させるのは難しいと思われる。誰がとりまとめるのか、企画するのか、保護者の都合もあり難しいと思われる。  
地域そのものの自体も希薄になってきている。自治会に入らない家庭も増えている中で、つながりを作っていくことは難しい。自治会そのものの存続が難しい地区もある。
- ・ 栃木アシストネットの活動について
- ・ 子育ての主役はだれか？⇒親と考えているが、学校にいるときは先生で家では親との考えも多い。主役は親であるということの意識の醸成も必要。家庭教育の充実。
- ・ 人同士のつながりが薄くなっているところでの情報共有の仕方やみんなの意見を聞く方法も課題。

③学校教育支援部会

部会名「学校教育支援部会」

テーマ「授業で子どもが豊かな体験をするには」

- ・皆川地区では令和7年度末で皆川中学校の統合により、皆川地区の児童生徒が地域の行事に参加しなくなるのではとの心配の声もある。
- ・統合して学校がなくなったとしても、児童生徒が学校で培ったものを地域につなげることが大切。
- ・小山市も特別支援学級やそこに通う児童生徒数が増加している。特別支援学級を担任する先生は若く経験の浅い教師だったりする。保護者との関わりの中で関係がこじれてしまうケースが多くあった。教師と保護者がうまく連携していくためにはどうすれば良いか。さらには教師、保護者、児童生徒が輪のようにつながるためにはどうしたら良いかを考えていきたい。
- ・教師と保護者が話す場合というのは、児童生徒に何か問題があったときなどが多い。問題が起きたとき以外で、もっと気軽に話せる場があると良い。
- ・栃特では以前、特別支援学級と特別支援学校の保護者の座談会というような話があったが、実現はしなかった。特別支援学校の保護者の経験やノウハウを特別支援学級の保護者に伝えることで、保護者の不安感が緩和され、地域の保護者同士がつながることができる。
- ・栃特でも以前は夏祭りをやっており、そのようなときに教師と保護者が話す場があった。
- ・「何か行事をやろう」という話題が出て何をやりたいか、誰がやるのかなどあやふやな形で終わってしまうことが多い。

#### ④地域貢献活動部会

部会名「地域学校協働部会」

テーマ「子どもを核に双方向で連携できること」

- ・学校が地域に貢献することはよくあるが・・・→地域が学校に貢献するためにはどうすれば
- 地域や施設は呼ばれれば行くけど、自分からは動かない。
- 手助けしたい思いのある人はたくさんいるはず。
- (例) うちの農地使えるよ→オリーブの木とか藍草とかを植える→働き手は生徒達→オリーブの木
- コーヒー店に卸して栃特ブランドを作る。
- ・親の支援も必要
- 活動の中で親は人に話をしたい
- 何かの活動を通して話す場を作りたい
- (例) 施設→OBや現役がいる、親の集まる場になりやすい。施設などの改革も必要。
- ・子どもを中心に保護者、学校、地域が双方向に連携することが大切→先生方の負担減に
- 子どもは地域に助けてもらえる子になってほしい。
- 人の助けを借りて自立する。

#### (3) その他

##### ○第3回の日程・内容

日時：令和7年8月27日（水）13：30～16：00

会場：栃木特別支援学校 各教室

参加者：学校運営協議会委員、下都賀教育事務所、事務局、本校全職員、元PTA役員

ボランティア関係の方、地域関係の方等

内容：拡大熟議

## 5 閉会